

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮北中】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況が図れていない。 <指導上の課題> 習得した知識・技能を活用する学習活動が設定しにくい。	⇒ 「スタディサプリ」等を活用する。朝に学習時間をとり、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、生徒自身の課題となる部分に気づかせ、補充学習への取り組みを促す。【週に2回実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 記述や話し合いの活動の中で、自分の考えや意見があまり出てこない。 <指導上の課題> 子どもが自分のこととして捉え、思考するような学習活動が設定しにくい。	⇒ 生徒が振り返りを記入したり、自身の考えたことやその過程を話したり、文章にしたりする学習活動を取り入れていく。【単元の終わりごとに実施】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では全ての領域・評価において全国平均を上回っていた。しかし「短歌の表現技法」については、全国的にも正答率が低く、本校でも知識・技能の中では一番低かった。言葉の使い方により、どのような効果があるのでか理解することに課題がみられた。そのため授業では短歌などの創作と鑑賞を行い、表現技法の力を伸ばしていきたい。 数学において「B 図形」では国、県の平均を超えているが、正答率が他の領域より低かった。ここから文章を読んで規則性を理解し、解く力に課題が見られた。今後の授業では、授業で扱う課題を精選するとともに、問題の間われていることの説明をし、力を伸ばしていきたい。	
思考・判断・表現	国語では「読むこと」「話すこと・聞くこと」「書くこと」と比べると正答率が低かった。中でも本文の要約をすることに課題があるようであり、無回答率が高かった。また、解答において記述式の無回答率が多かった。自分の考えを文字に書き起こすことに課題があるようである。数学において、全国平均を上回ったものの「ことからの理由を比較して説明すること」が正答率が低かった。短答式の問題の解答率、正答率が高いため、今後の授業では話し合い活動と、記述の内容をいれて、自分の考えを深めながら、記述の力を伸ばしていきたい。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	週二回のスタディサプリは概ね実施することができている。生徒が自身の課題となる教科に取り組むことができている。	変更なし
思考・判断・表現	B	毎時の振り返りや、解答の解説、時事問題についての意見交換など、教科ごとに応じた形で実施することができている。結果として、生徒から自発的に質問が出たり、生徒間で教え合う場面などが見られるようになってきている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)